

ADD(注意欠陥障害)とADHD(注意欠陥多動性障害)の氷山

見た目に分かるのはたった 1/8!!
大部分は表面下に隠れている!!

氷山の一角：
ADDとADHDの明白な行動

多動性

落ち着きがない おしゃべり
そわそわする じっとしてられない
頻繁に走る、よじ登る 絶えず動いている

衝動性

自制心の欠如 順番待ちが苦手
出し抜けて話す 話を遮る
真実でないことを口にする 邪魔をする
口答えする 癩癪を起す

不注意

整理整頓ができない 最後までやり抜かない
集中しない 忘れっぽい
聞こえていないかのよう 気が散る
うっかりミスをする 物を失くす
学校の勉強をしない

表面下に隠れているもの：
明白ではない行動

神経伝達物質の欠如

衝撃行動

神経伝達物質（ドーパミン、ノルエピネフリン、セロトニン）量の不足が思考を司る脳活動の減少を引き起こす

虚弱な遂行機能

作業記憶と回想
活性化、覚醒、努力
言語吸収、感情の抑制、複雑な問題の解決力

時間感覚の損失

正確な時間経過の判断をしない
時間の経過を忘れる
常に遅刻
事前計画力がない
長期的な企画を忘れる、または遅れる
作業に要する時間予測が困難
先の計画困難
せっかち
待つことが嫌い
時間錯誤
宿題が永遠に終わらない
宿題を回避する

睡眠障害 (56%)

安眠ができない
寝付けない
起きれない
学校に遅刻する
授業中に寝る
睡眠不足
いらいらする
朝、親と喧嘩になる

脳の成熟に3年の遅れ

30%の発達遅延
成熟が劣る
無責任
18歳が12歳の振る舞い

報酬や処罰から学びにくい

不作法を繰り返す
しつけは困難なこともある
ルールに従わない
自己の行動管理困難
過去の行動を学習しない
過去の行動から学ばない
あと知恵の感覚なく行動
速攻的な報酬が必需
長期的報酬は効果なし
自分の行動を吟味しない
自分の行動の転換困難

共存する状態

2/3 が他に少なくとも一つ合わせもつ
心配症(34%) 鬱病(29%)
躁鬱(12%) 物質乱用(5-40%)
トウレット障害(11%)
強迫性障害(4%) 反抗挑戦性障害(54-67%)
行為(行動)障害(22-43%)

深刻な学習問題(90%)

限局性学習障害(25-50%)
乏しい作業記憶 暗記困難
教師や親の要望を忘れる
数学の計算が遅い(26%)
スペリングの問題(24%)
貧弱な書き言葉(65%)
作文が苦手
情報回収が遅い
聞く力・読む力が弱い
言葉で物事を説明するのが困難
急いで言葉を組み合わせるのが困難
無秩序
認知処理が遅い
細かな運動協調性に乏しい
字がきたない
不注意 学習への衝動的な取り組み

欲求不満への忍耐力が低い

感情の抑制が困難 短気 感情的に反応する
容易に癩癪を起す たやすく諦める
物事を最後までやり通さない
考えずに話す・行動する
自分の気持ちに関心を抱く
他者の見解に対する理解困難
自己中心的になりがち
わがままになりがち

ADD(注意欠陥障害)、ADHD(注意欠陥多動性障害)は、多くの人が思うよりもかなり複雑なもの！
氷山のようにこれらの障害に関わる問題は、目には見えない部分が多い。程度が軽い場合、中くらいの場合、著しい場合、さらには他の症状と共存する場合があります、身体障害のある生徒もいる。